

論文審査の結果の要旨

堀 美菜

申請者氏名

カンボジアの内水面漁業は、使用漁具や漁場によって、大規模・中規模・小規模漁業に分類されている。小規模漁業は自由漁業であり、村内の水田や村周りの小河川で営まれる自家消費的なものと考えられてきた。1995年から96年にかけてメコン河委員会とカンボジア水産局が合同で実施した家計調査により、総内水面漁獲量の約6割を小規模漁業の漁獲物が占めることがわかり、その重要性が見直された。しかし、世界的に見ても、小規模漁業のような零細漁業を対象とした調査研究は、これまでほとんど行われておらず、どのような人々が、どのような漁業を営み、それらが社会の中でどのような役割を果たしているのかという実態が明らかになっていない。そこで、本研究では、カンボジア、トンレサープ湖周辺の地域住民にとって、小規模漁業がどのような重要性や役割を持つのかを検討し、今後の水産資源管理と開発の調和に関し考察を行った。

以上の序章につづき、第二章では、水田漁業などによって代表される小規模漁業が、農村地域においてどのように営まれるのを明らかにするため、農業地域であるコンポントム州の2村において聞き取り調査を行った。その結果、この地域で農民が積極的に漁業を行う背景には、自家消費分さえも賄うことのできない稲作の低生産性が影響していると考えられる。

つづいて、農業生産性の低さが、農民の積極的な漁業活動を引き起こしているかどうかを確かめるため、トンレサープ湖周辺の別地域の3村を対象に、聞き取り調査を行った。これら3村では、稲作の生産量は水田面積の広さや乾季作の有無などにより、多少の差異が認められたものの、概してコンポントム州の2村より生産量が多く、農民は余剰分の米を販売することにより現金収入を得ていた。また、コンポントム州の2村では、漁業収入が家計において重要な位置を占めていたが、他の州の3村においては、農業収入と労働賃金が重要な位置を占めていた。

以上より、農民による小規模漁業は、農業生産性と周辺の経済状況に大きく影響を受けることが分かった。

第三章においては、専従的に漁業を営む人々による小規模漁業の実態を明らかにするため、まずコンポンチュナン州の1村において聞き取り調査を行った。調査対象村は水上生活者の村であり、クメール人、チャム人、ベトナム人の3民族が住んでいた。家計における漁業収入、家畜収入、養殖収入、労働賃金、借入金の額には、民族による違いには、借入金を除き、有意な差は認められなかった (ANOVA, $p>0.05$)。また、家計に占める漁業収入の割合は、6割から7割以上を占めており、漁業収入への依存が高いことが明らかとなった。

次に、コンポンチュナン州の結果を他の漁村地域と比較するため、プルサト州とシムリアップ州の漁村2村を対象に、同様の聞き取り調査を行った。その結果、漁民の漁獲量、漁獲物の取

扱い、漁業収入において有意な差は認められず、漁民はどの地域でも同じような小規模漁業活動を行っていると考えられた。

すなわち、漁村では、小規模漁業は現金収入源として極めて重要であった。また、仲買業者は、漁民の魚を買い取るだけでなく、現金貸付なども行っており、漁村の小規模漁業は、漁民だけでなく、仲買業者との関わりを含めて成立していた。

第四章では漁獲物の流通システムを明らかにし、小規模漁業の経済的波及効果を考察することとした。水産物は、魚種、サイズ、季節により転売先が異なり、プノンペンへ転売される魚種とタイへ転売される魚種は異なっていた。クリプトプテルス属は、普段はタイへ転売されており、高級魚のサンドゴビーは、プノンペンの輸出業者を通じて、マレーシア、シンガポール、香港、台湾へ活魚として輸出されていた。

最終章においては、トンレサープ湖周辺における小規模漁業の地域性や特異性を考慮しつつ、持続可能な資源管理方策について考察を行った。

農業生産性の低い農村部においては、漁業収入が家計を支えていた、一方、農業生産性が高い地域及び賃金労働機会の多い地域では、小規模漁業は自家消費的に営まれており、漁業収入への依存度が低かった。このことから、開発プロジェクトなどを活用し、農業生産性の向上を図ることで、農民の漁業への依存度を下げ、農民の漁業活動を、無理なく低減させることができるものと推察された。また、そのカンボジアの水産物の商品性の高さから、流通システムを改善することにより、漁家の収入を向上させることが可能であり、資源管理に有効に作用するものと考えられた。

以上、本研究は、カンボジアにおける小規模農業の実態を、はじめて総合的に明らかにしたものであり、その解析結果は、今後、途上国での天然資源管理を考える上で、きわめて重要な情報である。よって、審査委員一同は本研究を博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。

- ※ 使用アプリケーションで作成したもの。
プリントアウトしたもののほか電子データ（媒体はF D, MO可）
で提出する。
ファイル名は「申請者氏名」（例：東大太郎.doc）